

Map 6 暖かさの指数

暖かさの指数とは、日本の植物生態学者である吉良竜夫が考案したもので、植物の成長にとって必要な最低限の気温の平均を5℃と考え、12ヶ月分の月平均気温が5℃以上の月の平均気温から5を引いた数値を合計したものです。暖かさの指数は、気候帯、植生帯(森林タイプ)の区分と対応するとされています。

暖かさの指数	気候帯	森林タイプと代表的植物
15～45	亜寒帯 温帯気候と寒帯気候の間に形成される気候帯。 最寒月の平均気温が零下3℃未満、最暖月の平均気温が10℃以上の地域。	常緑針葉樹林 エゾマツ、トドマツ、シラビソ、トウヒ、コメツガ
45～85	冷温帯 温帯のうち、亜寒帯に接する地域。 月平均気温10℃以上の月が4～6ヶ月継続する地域。	落葉広葉樹林 フナ、ミズナラ、シナノキ、ケヤキ、カエデ類
85～180	暖温帯 温帯のうち、亜熱帯に近い比較的穏やかな気候帯。 月平均気温10℃以上の月が7～9ヶ月継続する地域。	常緑広葉樹林 スタジイ、タブノキ、アカガシ、ウラジロガシ
180～240	亜熱帯 熱帯気候と温帯気候の間に形成される気候帯。 およそ北緯20～30度に位置し、冬に極端な寒さ(氷点下以下の気温)になることはなく、月の平均気温が20℃を超える月が4ヶ月以上ある温暖な地域。	常緑広葉樹林 アコウ、ガジュマル、オキナウラジロガシ、マングローブ、ヘゴ

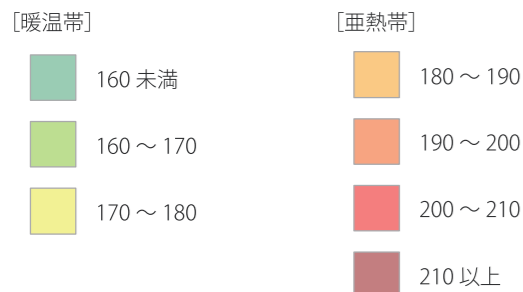
マップ6は、気象庁が10年ごとに発表する「メッシュ年平均値2020」から作成しました。年平均値とは、過去30年分の気象データに基づいて平均値を算出したもので、「メッシュ年平均値2020」の対象期間は平成3(1991)年～令和2(2020)年です。気象台やアメダス観測所などの観測値のない箇所は、地形や土地利用の影響を考慮し、約1km四方のメッシュごとに、年平均値を推定しています。

奄美群島は亜熱帯海洋性気候で、暖かい海に囲まれているため、四季を通じて温暖で年平均気温は20℃を超えます。奄美大島、徳之島の標高が高い地域は、暖かさの指数が180未満の暖温帯に区分され、それ以外の地域は亜熱帯に区分されます。暖温帯の地域があることが、同じ中琉球の沖縄諸島との大きな違いです。

■ 月別平均気温と暖かさの指数 (各月の平均気温の年平均値を使用)

地点名	平均気温(℃)												暖かさの指数
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
湯湾岳	10.9	11.3	13.3	16.2	19.0	22.3	24.6	24.7	23.2	20.1	16.5	12.7	155
与論空港	16.8	16.9	18.4	20.7	23.3	26.3	28.6	28.8	27.7	25.3	22.1	18.6	214

凡例



[出典] ・平均気温 「国土数値情報(年平均メッシュデータ)」(国土交通省) (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-G02-v3_0.html)
 ・市町村界 「国土数値情報(行政区画データ)」(国土交通省) (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html#prefecture46)
 ・陰影 基盤地図情報数値標高モデル 10mメッシュ(標高)より作成
 ・背景図 地理院タイル(淡色地図)
 ・暖かさの指数 吉良竜夫, 1977A Climatological Interpretation of Japanese Vegetation Zones. Vegetation Science and Environmental Protection, Maruzen, Tokyo



索引図

